



ひよろ長い

私は、ある植物を育てている。

育て始めてから、もう、うん十年経っている。

小学生の頃、学校で育てていた朝顔が、私のだけ朝顔じゃなかった。

いつまでも花は咲かないし、冬になっても枯れなかった。

そして今現在、ここにいる。

茎はひよろ長く、もう少しで天井に着きそうだ。

成長は遅い。そして今にも枯れそうなのに、なかなか枯れない。

弱々しい茎は、なんにも支えをしないのに、不思議とすくっと立っている。

私は気が付いた時だけ水をやり、気を張らずに育ててきた。そのせいか、この植物も気を張らずに生きていようだ。まだ一度も花は咲いたことがないのに、私の家に我が物顔で、居座り続けている。

ある日、予感がした。

この予感は、私の場合、すごくよくあたるのだ。

明日、花が咲く。

私の心は嬉しさでいっぱいになった。

明日咲く、明日咲く、明日咲く

胸がツンと痛くなって、眠れなかった。

私は仕事から早く帰って来た。

いそいそと、植物に近づく

ひよろ長い茎のずっとずっと上の方

そこには、朝顔にそっくりな、紫の花が咲いていた。

私の夢は叶った。

【2018-06-16】指さし小説 第27話

<http://p.booklog.jp/book/122552>

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

今回のテーマは、見た瞬間ぷっと笑ってしまいました。

ひよろ長いのひよろって、すごくその形態を表している気がします。ひよろひよろっと。
私が小学校の時に育てていた朝顔は、12月になってようやく咲いたので、その朝顔のことも
思い出しながら書きました。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122552>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト